



各 位

平成 18 年 10 月 19 日

会社名 日立電線株式会社
代表者 執行役社長 佐藤 教郎
(コード番号 5812 東証・大証 1 部)
問合せ先 執行役 人事総務本部 副本部長
富山 正章
(TEL. 03-6381-1050)

平成 18 年 9 月中間期 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 9 月中間期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日) の連結業績予想及び個別業績予想について、平成 18 年 7 月 28 日の「第 1 四半期財務・業績の概況 (連結)」発表時に公表しました予想値を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 18 年 9 月中間期業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日)

(1) 連結

	単位	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 18 年 7 月 28 日発表)	百万円	235,000	5,000	2,100
今回修正予想 (B)	百万円	252,000	9,000	4,000
増減額 (B) - (A)	百万円	17,000	4,000	1,900
増 減 率	%	7.2	80.0	90.5
(ご参考) 前年中間期実績 平成 17 年 9 月中間期	百万円	190,994	3,427	1,072

(2) 個別

	単位	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 18 年 7 月 28 日発表)	百万円	145,000	2,500	800
今回修正予想 (B)	百万円	154,000	5,000	2,000
増減額 (B) - (A)	百万円	9,000	2,500	1,200
増 減 率	%	6.2	100.0	150.0
(ご参考) 前期実績 平成 17 年 9 月中間期	百万円	120,072	1,918	1,404

2. 業績予想修正の理由

当社の平成 18 年 9 月中間期の連結及び個別の売上高は、銅価の高騰に伴い、電線・ケーブル、伸銅品等の販売価格が押し上げられたほか、電線・ケーブル分野の需要が好調に推移したこと等により、当初予想を上回る見通しとなりました。

また、損益面では、電線・ケーブルの需要が高水準であることに加え、情報ネットワークソリューション部門のうち、通信事業者向けの出荷が上期に集中したこと、前期末から当中間期末にかけて急激に銅価が上昇し棚卸資産の期末評価益が発生したこと、並びに電線・ケーブル事業において銅価高騰分の販売価格への転嫁が進展し、これまで発生していた損失が縮小したこと等により、連結及び個別の経常利益は当初予想を上回る見通しとなりました。これに伴い当期純利益も当初予想を上回る見通しとなりました。

3. 通期業績予想について

平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の連結業績予想及び個別業績予想については、情報ネットワークソリューション部門等で、当初予想よりも出荷が上期に集中したこともあるため、現在、経営を取り巻く諸条件を精査しつつ算出作業を進めております。これら通期業績予想につきましては、平成 18 年 10 月 30 日に予定しております「中間決算短信（連結）」及び「個別中間財務諸表の概要」発表時に公表いたします。

以 上

（注記）

前述の業績見通し等に記載されている各数値は、実績数値を除き当社の経営者が現時点で判断する一定の前提及び仮定に基づき計算しており、実際の業績等は見通しの数値と異なることがあります。

その要因のうち主なものは、次のとおりです。

- ・ 主要市場（特に日本、米国、アジア）における経済状況
- ・ 急激な技術変化
- ・ 新製品・新技術の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及びグループ会社の能力
- ・ 製品市場、製品市況の変動
- ・ 為替相場の変動
- ・ 資金調達環境の変動
- ・ 製品需給、製品市況及び為替相場等の変動に対応する当社及びグループ会社の能力
- ・ 自社特許の保護及び他社特許の利用の確保
- ・ 製品開発等における他社との提携関係
- ・ 日本の株式相場変動